鹿児島の自然だより　第 233 号　　令和７年９月１日　鹿児島県立博物館発行

植物 89

栗野岳西側斜面で見られる植物

植物担当　金本　直子

霧島山系の西の端に位置する栗野岳は，霧島火山群の中でも初期にできた火山です。現在でも，西側中腹に八幡大地獄と呼ばれる大きな噴気帯があり，火山であることを実感することができます。また，栗野岳の南側の尾根にはカエデなど落葉広葉樹が見られ，北西側斜面には照葉樹のタブノキなどの原生林が広がり，ヒガンザクラの自生南限地となっています。さらに，八幡大地獄周辺では火山の過酷な環境に適応した植物が見られるなど多様な植生を見ることができます。今回は，栗野岳中腹の西側斜面で７月下旬に見られた植物３種を紹介します。

ケヤキ（ニレ科）

栗野岳中腹の西側斜面には，ケヤキの群落が見られます。ケヤキは，ニレ科の落葉広葉樹で，樹高が 20～30ｍの高木になる樹木です。本州から九州の湿潤で肥沃な環境を好み，県内本土が自生地の南限とされています。この場所に生育するケヤキの幹回りを測定すると，２ｍを超えるものが多数あり，樹高については 30ｍを超える個体も見られ，県内ではあまり見ることのできないケヤキの巨木の群落を見ることができます。

ケヤキ群落

オオキツネノカミソリ（ヒガンバナ科）

オオキツネノカミソリは，落葉樹林の林床や林縁に生育する多年草です。名前は，花の色がキツネの毛の色に似ていること，葉が剃刀のように細いことに由来しています。また，ヒガンバナの近縁種のため，ヒガンバナと同様の特徴が２点あります。

オオキツネノカミソリ

１点目は，球根から１本の花茎が伸び，その先端に放射状に数個の花をつける点です。

２点目は，葉と花が球根から出る時期が異なる点です。葉は春に出芽し，光合成を行ない，球根に栄養を貯えた後，枯れてしまいます。その後，夏を迎えると球根から花茎が伸び，花をつけます。そのため，花と葉を同時に見ることはできません。毎年，７月下旬頃に栗野岳中腹の西側斜面の林床では，淡い橙色の美しい花が群生する様子をみることができます。

オオキツネノカミソリが群生する様子

ツクシテンツキ（カヤツリグサ科）

ツクシテンツキは，九州と沖縄にのみ生育する多年草です。日当たりの良い草地だけでなく，過酷な環境である噴気孔付近でも生育できるという特徴をもっています。八幡大地獄では，火山ガスに常に覆われている場所や，水温 74℃の温泉が沸いている場所のすぐ脇など，他の植物が生育しない場所でツクシテンツキを観察することができます。

ツクシテンツキの生育環境

ツクシテンツキ